



岷江入楚

東屋

弟四十九

特別  
~ 12  
4604  
49



712 85  
4604  
49



東屋

私記云、少二歳の秋也。

五歳 權大納言右右内

年三  
正月

中納言丹次非末事

秘文非末、  
中納言丹次、  
其の母常陸外妻也

中納言丹次欲嫁文非末を以て少納言

左を少納言非常陸外之女婿事

中人計事告常陸外常陸領事

秘記云大内殿おりの大納言身中乃文おりの内人

いありおりの行多れと云ふは乃大内殿ハタ

旁乃大内也梅家大納言ハ梅右大内也常陸外

妻お仲人なり大内より少納言と云ふ事

左と少納言聚事 常陸外十五六

中納言丹次ハ二条院中事

左非末ハ二条院中事

非末板居二条院西庇之内行事

中納言丹次ハ二条院中事



常陸介兼左少将系二条院事

兵部文系中云行事

中右大臣二条院云云物成事

大将系二条院行伴物云云物成事

大和云云物成事

御彼形代云云物成事

大将欲行形代事

大和具香川云云事

中右大臣云云物成事

常陸与表近車云二条院廊方云云云云行事

中右大臣云云事

兵部云云物成事

古云云物成事

中右大臣云云物成事

兵部云云物成事

中右大臣云云物成事

乳母行常陸及於云云振舞事

常陸系二条院伴物云云云云事 三条云云

常陸及又守云云事

常陸及云云送舞云云事 云云云

云云云云云云云云事

云上云云事

秋末大和云云物成事

云云云云云云云云事

大将系云云物成事

大和云云物成事

并云云云云事

九月十三日大和到二条院云云事

云云云云事

大和云云物成事

大将云云物成事

東屋

花以奇々 祠為卷右秘

何 東屋 アツマア 四阿 アツマア 雨下 ニヤトヨスリ 花 一とじふしうやまの 東屋 のあまの 花 花

秘 四阿 阿白會何於何切 若土記何重屋若今四柱重屋履管

私案アツマア重屋トアリアツマア名屋ノ心ん 秘 花

私為方ノ庇ヲ角木 卦棟木ノ下ヨリ 菅下ニシテラある焉と

云常ノ屋ノ如ク破傷ノ処ナキ物也又ハ 秘 花 吾妻屋

花 薙廿二歳ノ秋也

秘 薙廿二歳ノ八月より九月までノ事あり 秘 花

私詞 備言示にも 秘 花 東屋と云右あり



しつぷりあひけり

秘 前腹や

あけけりしむいぢまをうけて

秘 保永乃母也

私に保永と云ふ人は巻よ少乃妻よけり

生れしよ六人ありけり

何れいんちつ白濁也 或婦に

ふしつと云ふしつと云ふ

秘 保永と他人のしつと云ふ

しつと云ふは

保永乃母乃母と云ふ

しつと云ふは

保永と云ふは

あつと云ふは

秘 保永乃母乃母と云ふは

しつと云ふは

常陸介乃子と云ふは

秘 常陸介と云ふは

同也

あつと云ふは

前腹乃子と云ふ

あつと云ふは

いふは

秘 母乃我腹の子女と云ふ

あつと云ふは

又しつと云ふは

と云ふ

私若保永と云ふは

保永と云ふは

あつと云ふは

あつと云ふは

あつと云ふは

うしろや〜

常陸守の俗性三のま孫と也

か〜いしむ〜

常陸守〜

富乃わりの〜

事小の〜

何分なる〜

好事者慕い銭帛〜

〜

お〜

お〜

信た〜

い〜

花 全也

常陸守 かわらぬ

通居〜

東田乃任人武と本と東夷と異う〜

あ〜

あ〜

何腹折 可合地況合 庚申

秘 物況合 可合也 庚申

こ〜

常陸守の〜

〜

秘 字舟乃舟山しや

花 庚申健人 版中有三戸 為人言常 庚申夜止告 天年訖命 過地金籍 庚申之夜不 寂則不得 上矣 許軍詩 年長金方推 甲子夜寒初 共守庚申



后とかねをうらうらニ三ツの

大將あり人の子也 大將を能不見哉

志なきはちあつと

かわけをわはふ人哉

いふこといふこといふこといふこと

いふこといふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこといふこと

いふこといふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

いふこといふこといふこと

とらゑのふいげうのうららり  
花内教坊大との井のうららりあはるる人年始ふと  
乃を取あり

秘 七郎大とのわとふあて 妻美

弄 七の世大なるさ小ふさふといふ内教とくいふがう  
何内教坊別當大中納て中堪其道之人捕く  
ていともいふとれりいふともいふわあうと

常陸守のわすしいらるる

たやアとあうのわ

万秋樂よ内教坊説とふ事をえはやくあう曲のわ  
とらふ六帖のゆんきり説

十三字得琵琶成 右属教坊第一郎 琵琶川

秘 内教坊琵琶乃師 和漢の古事り

ととがうささくれをよひさあはるる阿らふ時  
秘 師とや 師通と同後乃りや

さすよ物きり

秘 守乃りて

私あうりいりいりいりいりいりいりいりいりいり

あはるるいりいりいりいりいりいりいりいりいり

何 吾子日平記 我子阿子 疾子 翁

秘 ちり子さるは舟よりいりいりいりいりいりいりいり  
かのかわちりいりいりいりいりいりいりいりいり

たをかねよは乃りいりいりいりいりいりいりいり

秘 字亦乃母の心や

人の心乃ちりいりいりいりいりいりいりいりいり

はあひあうりいりいりいりいりいりいりいりいり

樂子

おきくの人はおきく行なひ

秘 おきくといふ

并 心をわすれぬ人の心は

あやふしき一途の心は

は 亦の父の心

うらあをわすれぬ心は

秘 心をわすれぬ心は

あやふしき一途の心は

秘 心をわすれぬ心は

秘 心をわすれぬ心は

あやふしき一途の心は

秘 心をわすれぬ心は

あやふしき一途の心は

秘 心をわすれぬ心は

あやふしき一途の心は

秘 心をわすれぬ心は

あやふしき一途の心は

秘 心をわすれぬ心は

あやふしき一途の心は

秘 心をわすれぬ心は

あやふしき一途の心は

秘 心をわすれぬ心は

秘 心をわすれぬ心は

あやふしき一途の心は

秘 心をわすれぬ心は

あやふしき一途の心は

秘 心をわすれぬ心は

あやふしき一途の心は

秘 心をわすれぬ心は

あやふしき一途の心は

秘 心をわすれぬ心は

あやふしき一途の心は

こころはちやいさ

守乃しむをよこころいふも

とん乃子をたつらんともいふは

継子をたつればとていふは

是より中いふのすゝめいふは

かたやあてやうかたは

少侍乃を具し

はかた侍乃子とて受取の女

ねむくおのけいふは

あてやうかたは

かたの御供よ

そかた乃いし受取の御

いふ事なれども

とていふは

かたの御供よ

はかたの御供よ

私に二ん母あ

おらんついで

申すらの所也

いふらあ

あすわ

まよふのしよ

こころはちやいさ

守乃しむをよこころいふも

とん乃子をたつらんともいふは

継子をたつればとていふは

是より中いふのすゝめいふは

かたやあてやうかたは

少侍乃を具し

はかた侍乃子とて受取の女

ねむくおのけいふは

あてやうかたは

かたの御供よ

そかた乃いし受取の御

いふ事なれども

とていふは

かたの御供よ

はかたの御供よ

私に二ん母あ

おらんついで

申すらの所也

いふらあ

あすわ

まよふのしよ

まゝいふらうあつたつと

秘 年一よりさやあつたつと

中よあつたつと

手 のあつたつと

秘 苗版り中よあつたつと

いやりらつたつと

秘 少わらわ

私字あつたつと

とだたたりたつたつと

かんのわらわらつたつと

音まや 何のさつたつと

秘 なるのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

とらわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

秘 ちのわらわらつたつと

いふ事よもすらんわきりけりたまふ  
媒乃いぬ也

このころはよむ時いかにまよひさせし  
け媒のいふ内にもいふ事ありけり  
ふはわきりけり

ちのまよひもいぬ也  
乃をかわりのいせし  
秘 媒乃狗

いふ事よもすらんわきりけりたまふ  
秘 守乃いぬ也

ちのまよひもいぬ也  
申すらん居よ也  
ねいふ事よもすらんわきりけりたまふ  
のいかにまよひさせし  
媒乃いぬ也

このころはよむ時いかにまよひさせし

秘 媒乃狗  
このころはよむ時いかにまよひさせし  
は亦また事  
いふ事よもすらんわきりけりたまふ  
は亦また事  
ねいふ事よもすらんわきりけりたまふ

てよまよひもいぬ也  
如棒半 掌上珠といふ事也

いふ事よもすらんわきりけりたまふ  
行そけがかりてあり  
けかわのいふ事よもすらんわきりけりたまふ  
ちのまよひもいぬ也  
ちのまよひもいぬ也  
ねいふ事よもすらんわきりけりたまふ  
ねいふ事よもすらんわきりけりたまふ  
ねいふ事よもすらんわきりけりたまふ



いふにこころをなすなり

け事流抄にこそ不寝 私けかわ初かの附より

お大乃家より常陸介らひへ心や

常陸介はお大乃家礼又も依流より出る人を

とらちるお大乃家ついで

常陸真常陸介の付り也

こころの言行らん

秘 女の心いふや

とらけお

秘 謀りあり

何とぞかこころをいふはこころの情なり

秘 謀の初に

こころの言行らん

秘 ちとら

おんごらのゆん

常陸介の女事也

何 眞實無止事

かたりんこころんかまきり

秘 かりんこころんかまきり

秘 疾のわよの思ふをこころにわたりて行廻るなり

秘 遠きこころもこころにわたりて行廻るなり

秘 かくれんこころん

秘 かくれんこころん

秘 かくれんこころん

秘 かくれんこころん

秘 かくれんこころん

秘 かくれんこころん

秘 かくれんこころん

秘 かくれんこころん

秘 かくれんこころん

秘 かくれんこころん



らりはさゝあきやうと

可  
ころも身はくしく心也又ちはん  
あすともん後のちう初よけはの  
こらとあかのしすいとうあり

孤露西んやみふくふくしうーのむい

見和秘抄いりのごん 一平のははとく

又あはりの

秘  
こかーことふ候ありこはせ一

手丁おんさり御よけはのほく

とあし子りやあつとらるの

私秘舞ノ

私人のととふあらしき

君幸一乃人の富秋

あはと人直人

らみんて位

後の年日おと

二つこのころ

何今度 自平化 願 若人

非  
けあ乃若人

秘  
私に私の若人

しうしぬの一人の媒介

やあしりおはと

私に信よあつ行

いひしりあはと

みことの

何  
こてま

左也

よりりり

手  
け初

手  
け初

手  
け初

手  
け初

手  
け初

しりあき不<sup>秘</sup>勅定のうやける其のうきなるに不<sup>秘</sup>後宮

あつ人のけしとよきし行かす

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

あつ人あはれいさき

手  
かわりにあつたまゝあはれめをわらひてしむる事あり  
らむにすしむる事と領状せんや

私弄の事あつたまゝの事とすしむる事ありて  
しむる事ありて大長よあつた贖券に  
しむる事ありて大長よあつた贖券に  
しむる事ありて大長よあつた贖券に  
しむる事ありて大長よあつた贖券に

秘  
保乃心也

い  
はる事ありて大長よあつた贖券に

は  
る事ありて大長よあつた贖券に

あ  
つたまゝあはれめをわらひてしむる事あり

く  
つたまゝあはれめをわらひてしむる事あり

あ  
つたまゝあはれめをわらひてしむる事あり

保乃心也

あ  
つたまゝあはれめをわらひてしむる事あり

大長よあつた贖券に

何  
贖券 工記権大納言去年 獻贖券申 官言

秘  
贖の字清てとあり

あ  
つたまゝあはれめをわらひてしむる事あり

私  
位大納言 贖銅 官言 大長よあつた贖券に

鉄  
貨をわらひてしむる事あり

あ  
つたまゝあはれめをわらひてしむる事あり

秘  
保乃心也

私  
位大納言 贖銅 官言 大長よあつた贖券に

あ  
つたまゝあはれめをわらひてしむる事あり

ふらふらと云ふ事の御座り候へども

<sup>手</sup>常一階の御座り候へども

<sup>秘</sup>集乃初に候へども

私に候へども

母に候へども

<sup>手</sup>あしに候へども

<sup>秘</sup>信に候へども

と云ふ事

月御座り候へども

<sup>秘</sup>信に候へども

母に候へども

あしに候へども

信に候へども

と云ふ事

ふらふらと云ふ事

常一階の御座り候へども

<sup>秘</sup>集乃初

私に候へども

母に候へども

<sup>秘</sup>信に候へども

あしに候へども

信に候へども

ふらふらと云ふ事

<sup>秘</sup>集乃初

私に候へども

<sup>秘</sup>信に候へども

あしに候へども

信に候へども

ふらふらと云ふ事



あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

あふあふ人なりんか

くまぐらが〜

手 かわさるお〜

秘 か持さる〜

すく〜

大持れり〜

く〜

あか〜

秘 母の詞

左の〜

久秀や 梅家大御左のの大臣也即ち結鈴

手 まさる〜

み〜

秘 困史言正三位源朝臣源惟方惟淡路太上天皇女也母當

麻氏皇選解未得其人太政大臣正一位藤原忠長

弱冠之時天皇悦其夙操超倫殊勅嫁清和太后其長也

御系惟性能琶頗可賞備記

か〜

秘 女 うま

秘 まさの〜

交り〜

秘 中〜

六〜

〜

字乃〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

人々入る事なき事なり

は舟のしるしをよみて

いふよき事なりと云ふ

は舟のしるしをよみては舟のしるしをよみて

らば舟のしるしをよみて

は舟のしるしをよみて

に舟のしるしをよみて

手 常陸介のしるしをよみて

あはれなる事なり

あはれなる事なり

私にやあはれなる事なり

らば舟のしるしをよみて

は舟のしるしをよみて

らば舟のしるしをよみて

は舟のしるしをよみて

厨子二階 常陸介のしるしをよみて

あはれなる事なり

あはれなる事なり

私にやあはれなる事なり

また舟のしるしをよみて

あはれなる事なり

私にやあはれなる事なり

あはれなる事なり

あはれなる事なり

あはれなる事なり

あはれ

人のしるしをよみて

あはれ

あはれなる事なり

あはれなる事なり

あはれなる事なり

あはれなる事なり



めりしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

こころのこころ

手紙のこころ

おとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

私のおとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

私のおとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

私のおとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

おとこしつゝありてはしるに

ふりりすきういふすりんと

中言の(仕事)といのむら

こまらりりゆー

申言の心

八より(出洋)容あり

こまらりりゆー

こまらりりゆー

私あつた(溢ん)せよ

ういよらりがりん

こまらりりゆー

大捕り

こまらりりゆー

こまらりりゆー

はる(う)りりゆー

大捕り

あまらりりゆー

八の(出洋)容あり

こまらりりゆー

取の(ぬ)窮屋

こまらりりゆー

母(は)りりゆー

こまらりりゆー

こまらりりゆー

こまらりりゆー

こまらりりゆー

かお(徳)聚の(附)る

こまらりりゆー

こまらりりゆー

東(繪)見善相(の)意見

こまらりりゆー

こまらりりゆー

こまらりりゆー

こまらりりゆー

まぢよのいしてわんづりてんぢ

かねや<sup>秘</sup>出居<sup>秘</sup>まぢよのいしてわんづりてんぢ

原かゆき東のぬきまぢよ

井 又版のいすぢよ

このいしてわんづりてんぢ

西のいしてわんづりてんぢ

所りぢよ

秘 又版のいすぢよ

秘 居居まぢよ

秘 居居まぢよ

秘 居居まぢよ

秘 居居まぢよ

秘 居居まぢよ

秘 居居まぢよ

秘 居居まぢよ

秘 居居まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

井 中まぢよ

決りまつ候とありけり

<sup>秘</sup> 白文の御とあり

<sup>再</sup> 白文の御とあり

あつてしつゝいふ

〜ありけり

<sup>秘</sup> 白文の御とあり

白文の御とあり

<sup>再</sup> 白文の御とあり

白文の御とあり

白文の御とあり

白文の御とあり

<sup>秘</sup> 白文の御とあり

白文の御とあり

<sup>再</sup> 白文の御とあり

白文の御とあり

いふ

白文の御とあり

<sup>再</sup> 白文の御とあり

白文の御とあり

白文の御とあり

白文の御とあり

白文の御とあり

白文の御とあり

白文の御とあり

白文の御とあり

白文の御とあり

白文の御とあり

白文の御とあり

白文の御とあり



まひりけくたさめい

身みのわらわわらわたせ

きさいりみやまひれあやほ

身みのふり

きしけくちりてふてしとあきき常とく法ほ舞ま乃のあね

秘ひ 伊い勢せ乃の相あ也や 三年見ゆ無何茶事也子に祖の年七

弄ろう ちりてふ相あいあす 三つしあ 弄りちり 娘人をとて

秘ひ ちりてふとあきとま相あ也 伊い勢せ乃の心こららはは

私し思し見みおおたた乃の日ひ作して 伊い勢せ乃の心こららはは

小こ住すせせしし進しん守しゆ乃の心こららはは 秘は伊勢

物もの乃の心こららはは 秘は伊勢

乃の心こららはは 秘は伊勢

未まとと不ふ乃の心こららはは 秘は伊勢

乃の心こららはは 秘は伊勢

乃の心こららはは 秘は伊勢

上う殿てん之之妨ぼう乃の宿しゆく侍しやう之之時とき副ふ於お宿しゆく物もの抄しやう上じやう自みづか余れ不ふ能な抄しやう上じやう晴は 玲れい日にち記ぎ乃の心こららはは 秘は伊勢

弄ろう 武ぶ官くわん法ほ乃の事こと也

乃の心こららはは 秘は伊勢

秘ひ 中ちゆう乃の心こららはは 秘は伊勢

乃の心こららはは 秘は伊勢

弄ろう 字じ乃の心こららはは 秘は伊勢

乃の心こららはは 秘は伊勢

乃の心こららはは 秘は伊勢

乃の心こららはは 秘は伊勢

乃の心こららはは 秘は伊勢

乃の心こららはは 秘は伊勢

乃の心こららはは 秘は伊勢

あふつりくくさあつね

中言乃事

日るまのほいさ

中言乃事

御心らりわくくみはな

中言乃事

あふあはれは

中言乃事

あつとあつと

中言乃事

女言乃事

中言乃事

わすれらとあつと

中言乃事

こころのせつり

中言乃事

ふうのあつたさあつ

中言乃事

松姫巻

こころのあつたさ

中言乃事

あつたさ

中言乃事

中言乃事

中言乃事

こころのあつたさ

中言乃事

あつたさ

中言乃事

あつたさ

中言乃事

あつたさ

あつたさ

中言乃事

よつてはうらぶらぶらとくまをくまのうらぶらとくまをくまのうらぶらとくまを

秘 母のうらぶらとくまをくまのうらぶらとくまを

秘 大君の事や手

大君の事や手のうらぶらとくまをくまのうらぶらとくまを

大将のうらぶらとくまをくまのうらぶらとくまを

秘 常陸守の事

秘 女三つの子をくまのうらぶらとくまを

秘 宇治乃大君の事や手のうらぶらとくまを

秘 又三つの子をくまのうらぶらとくまを

秘 二つの子をくまのうらぶらとくまを

秘 大君の事や手のうらぶらとくまを

秘 けしきりてはくまのうらぶらとくまを

秘 私けしきりてはくまのうらぶらとくまを

秘

いふにうらぶらとくまのうらぶらとくまを

秘 申すに手

秘 申すに手のうらぶらとくまを

秘 けしきりてはくまのうらぶらとくまを

秘 みてはくまのうらぶらとくまを

秘 おくはくまのうらぶらとくまを

秘 事や手のうらぶらとくまを

秘 けしきりてはくまのうらぶらとくまを

秘 石家の御後の事や手

秘 八雲乃に遊者よ手のうらぶらとくまを

秘 のさかへてはくまのうらぶらとくまを

秘 母の事や手

秘 はずと大君のうらぶらとくまを

秘 一りとくまのうらぶらとくまを

秘 此系乃一りとくまのうらぶらとくまを

秘 けしきりてはくまのうらぶらとくまを





花よりついでにけふかきしるすらひや  
八文也

私八文の字并を尋まじ法にせりしより人ふをあらり  
らまはしあまはるるや おゆね也

中意のこ尋まらるるにあらるる也  
うたしものあしれりし事しきしり

今来常陸國は信大は信とよしありしは信と  
ふりや又ふりぬのは信と奥列やれとふりや

常陸國はあまのこは信と信と信と信と信と  
けすよあひのすのこは信と信と信と信と信と

私け云葉の信とまじらるるのあをせりしり  
ありしは面

り身いととのぬりあふりしは信と信と信と  
せけい青よりやうわらんあふりしは信と信と

大のの家身は信と信と信と信と信と  
川あま青の信と信と信と

川あま青の信と信と信と信と信と  
口信と信と信と信と信と

口信と信と信と信と信と信と  
口信と信と信と信と信と信と

口信と信と信と信と信と信と  
口信と信と信と信と信と信と

口信と信と信と信と信と信と  
口信と信と信と信と信と信と

口信と信と信と信と信と信と  
口信と信と信と信と信と信と

口信と信と信と信と信と信と  
口信と信と信と信と信と信と

口信と信と信と信と信と信と  
口信と信と信と信と信と信と

この天に降りてはまはる  
秘はみや

はみよはみよのついでに  
中まはるをさしつらん  
けはみよをさしてをわらふ

秘はみよはみよのついでに  
ついでにはみよをさしつらん  
是よりはみよの次はみよ

おけりておをさしつらん  
おあはれなはみよをさしつらん  
こらまはるを

秘はみよはみよのついでに  
おあはれなはみよをさしつらん  
ことおはる

はみよのついでにはみよをさしつらん  
はみよのついでにはみよをさしつらん

大將はみよのついでに  
はみよのついでにはみよをさしつらん

大將はみよのついでに  
はみよのついでにはみよをさしつらん

はみよのついでにはみよをさしつらん  
はみよのついでにはみよをさしつらん

えしよりまはるをさしつらん  
えしよりまはるをさしつらん

白まよのついでにはみよをさしつらん  
白まよのついでにはみよをさしつらん

白まよのついでにはみよをさしつらん  
白まよのついでにはみよをさしつらん

大將はみよのついでにはみよをさしつらん  
大將はみよのついでにはみよをさしつらん

車よりおをさしつらん  
車よりおをさしつらん

おけりておをさしつらん  
おけりておをさしつらん



くみり小亭「えわやうな

<sup>秘</sup>中意と若乃りしりや

くみり小亭「えわやうな

無事しとみりしりよすしりた非はけすなあやうし

た御後いんりつとやしはらへ後いんりつとやせ

しりつとやせしりつとやせしりつとやせ

しりつとやせしりつとやせ

<sup>秘</sup>しりつとやせしりつとやせしりつとやせ

<sup>秘</sup>しりつとやせしりつとやせ

かみりつとやせしりつとやせ

<sup>秘</sup>しりつとやせしりつとやせしりつとやせ

しりつとやせしりつとやせ

<sup>秘</sup>しりつとやせしりつとやせ

いりつとやせしりつとやせしりつとやせ

<sup>秘</sup>しりつとやせしりつとやせしりつとやせ

のりつとやせしりつとやせしりつとやせ

<sup>秘</sup>前よる

とにりつとやせしりつとやせしりつとやせ

<sup>秘</sup>しりつとやせしりつとやせしりつとやせ

<sup>秘</sup>出山御水清

私心やしりつとやせしりつとやせしりつとやせ

しりつとやせしりつとやせしりつとやせ

<sup>秘</sup>しりつとやせしりつとやせしりつとやせ

中意りつとやせ

いりつとやせしりつとやせしりつとやせ

<sup>秘</sup>しりつとやせしりつとやせしりつとやせ

<sup>秘</sup>しりつとやせしりつとやせしりつとやせ

<sup>秘</sup>しりつとやせしりつとやせしりつとやせ

しりつとやせしりつとやせしりつとやせ

<sup>秘</sup>しりつとやせしりつとやせしりつとやせ

<sup>秘</sup>しりつとやせしりつとやせしりつとやせ

善

人形 祭礼具 一撫 一吹

人形のさうらあき... 人形せめておとく

口大なる... 人形のさうらあき

つらみ... 人形のさうらあき

人形のさうらあき... 人形のさうらあき

人形のさうらあき... 人形のさうらあき

人形のさうらあき... 人形のさうらあき

人形のさうらあき... 人形のさうらあき

人形のさうらあき... 人形のさうらあき

人形のさうらあき... 人形のさうらあき

人形のさうらあき... 人形のさうらあき

人形のさうらあき... 人形のさうらあき

人形のさうらあき... 人形のさうらあき

人形のさうらあき... 人形のさうらあき

人形のさうらあき... 人形のさうらあき

人形のさうらあき... 人形のさうらあき

花の他... 花の他... 花の他...

秘 川舟日何何弄

川舟日何何弄... 川舟日何何弄

川舟日何何弄... 川舟日何何弄

川舟日何何弄... 川舟日何何弄

川舟日何何弄... 川舟日何何弄

川舟日何何弄... 川舟日何何弄

川舟日何何弄... 川舟日何何弄

川舟日何何弄... 川舟日何何弄

川舟日何何弄... 川舟日何何弄

川舟日何何弄... 川舟日何何弄

花あふささくおて地りしほにま

<sup>秘</sup> 花あふささくおて地りしほにま

<sup>弄</sup> 中意の意をすまふの

中意の意をすまふの

<sup>秘</sup> 中意の意をすまふの

中意の意をすまふの

<sup>秘</sup> 中意の意をすまふの

中意の意をすまふの

中意の意をすまふの

中意の意をすまふの

花あふささくおて地りしほにま

中意の意をすまふの

<sup>秘</sup> 中意の意をすまふの

中意の意をすまふの

中意の意をすまふの

中意の意をすまふの

<sup>秘</sup> 中意の意をすまふの

中意の意をすまふの

中意の意をすまふの

<sup>秘</sup> 中意の意をすまふの

中意の意をすまふの

<sup>夫</sup> 中意の意をすまふの

中意の意をすまふの

中意の意をすまふの

<sup>秘</sup> 中意の意をすまふの

中意の意をすまふの

中意の意をすまふの

あまの川とてさうていふにきりえとてい  
七夕の意はほろねて川をさうせたとしこやそよ  
あまの川とてさうていふにきりえとてい

あけまた乃春ふか白まの事とて度早よとてさうてい  
あまの川とてさうていふにきりえとてい  
あまの川とてさうていふにきりえとてい

あまの川とてさうていふにきりえとてい  
あまの川とてさうていふにきりえとてい  
あまの川とてさうていふにきりえとてい

あまの川とてさうていふにきりえとてい  
あまの川とてさうていふにきりえとてい  
あまの川とてさうていふにきりえとてい

あまの川とてさうていふにきりえとてい

あまの川とてさうていふにきりえとてい

あまの川とてさうていふにきりえとてい

あまの川とてさうていふにきりえとてい

あまの川とてさうていふにきりえとてい

あまの川とてさうていふにきりえとてい

あまの川とてさうていふにきりえとてい

あまの川とてさうていふにきりえとてい

花  
権託長往五  
年十月九日於  
山階寺洋見  
牛頭禰檀示

あまの川とてさうていふにきりえとてい

刀銀トノ瓶  
は香ヲヌレ則  
愈ト戸

あまの川とてさうていふにきりえとてい

正法念經高山之峯多有牛頭禰檀諸天与修羅戰時為  
刀所倫以此香隆之即念此山峯状如牛頭故名牛頭禰

秘勅物



仙の返しと〜のいなりと

并 經云實語者不雜語者

ちくちくまの多ふといは詭説よなりけりなりとありて是れ  
澄拙くはけきなり事と眼前よみとてふ  
すれよ思みとてきかたり

ほよ乃母乃んこれ蓋とありてとてきかたりとありて  
や〜のいなりと〜のいなりと

夫〜のいなりと〜のいなりと  
秋 仲老也

蓋の〜のいなりと〜のいなりと

つらあはける事とてふは〜のいなりと〜のいなりと  
秘 蓋乃性といふ也 平 集

よのま乃けりありて後とてふは〜のいなりと〜のいなりと  
平 内親とていふなりと

女二文の事

世〜のいなりと〜のいなりと

尾小をあす〜のいなりと〜のいなりと

ら〜のいなりと〜のいなりと

つまみりせ〜のいなりと〜のいなりと

は〜のいなりと〜のいなりと

秘 母乃新

つら〜のいなりと〜のいなりと

あ〜のいなりと〜のいなりと

あ〜のいなりと〜のいなりと

あ〜のいなりと〜のいなりと

あ〜のいなりと〜のいなりと

あ〜のいなりと〜のいなりと

あ〜のいなりと〜のいなりと

あ〜のいなりと〜のいなりと

あ〜のいなりと〜のいなりと

私高早尊早あ〜のいなりと〜のいなりと

は〜のいなりと〜のいなりと

これ後乃世をくふしき身よ

娘は花は執り道現世後生れさうり  
あつらひなり

秘 申すは後世をくふしき身よ

私前よは後世をくふしき身よ

申すは後世をくふしき身よ

いとさうり

秘 申すは後世をくふしき身よ

いとさうり

秘 申すは後世をくふしき身よ

いとさうり

いとさうり

いとさうり

をいせしむ

いとさうり

いとさうり

いとさうり

いとさうり

いとさうり

いとさうり

いとさうり

いとさうり

いとさうり

いとさうり

いとさうり

いとさうり

いとさうり

いとさうり

いとさうり

所車おのりいひてはりてはすまうわいし

手糸田の時毛車くくまゝ一倒さしては世のく出行

心あふく一細代車もく一又女車八葉と

秘 洞代車おのりまゝ一もまをたかほかへてまひい

はやくおろんせ

きいわいさくさくさ

秘 常陸車白文り車一糸わはくさくさ

立くわ

らよ車もくわくわ

秘 廊のくわくわくわ内はすく下車

ふりれくまけんくまけんよはれ出る

秘 白文とせは命

秘 常陸車つ所くまわくま白文り同くわ

名りくわくわくわくわ

秘 白文り所くわくわくわくわくわくわくわくわ

秘 け車おのり也

とのくわくわくわくわ

秘 白文りおのりもくわくわくわくわくわくわくわ

をくわくわ

秘 常陸車おのりもくわくわくわくわくわくわ

けいこくわくわくわ

秘 常陸車おのりもくわくわくわくわくわくわ

秘 常陸車おのりもくわくわくわくわくわくわ

秘 常陸車おのりもくわくわくわくわくわくわ

秘 常陸車おのりもくわくわくわくわくわくわ

秘 常陸車おのりもくわくわくわくわくわくわ

秘 常陸車おのりもくわくわくわくわくわくわ

秘 常陸車おのりもくわくわくわくわくわくわ

秘 常陸車おのりもくわくわくわくわくわくわ

秘 常陸車おのりもくわくわくわくわくわくわ

秘 常陸車おのりもくわくわくわくわくわくわ

かきかきかきかき

秘 申まはせ 兼申まはせ

大補おそろうして乃以女くらうすありけり

秘 ころぬ人也

私申まの宮女乃大補おびに女くらうと幸隆のおすす事  
よのふ

いほちいほちいほちいほちいほちいほちいほちいほち

秘 かにのゆいあさんれお入し事ありふのゆいあ

いとあし申まのいほちいほち

あしをいほちいほちいほちいほち

秘 ぶんさうりし事いほちいほちいほちいほちいほち

川あ回 兼手

あちあちすあかしのいほちいほち

秘 ち屋あちあちいほちいほちいほちいほちいほち

私 白りしはしそわし

いほちいほちいほちいほちいほちいほちいほち

秘 助名申まはせおちやいほちいほちいほちいほちいほち  
たし大とのいほちいほち

秘 久きれ息くらし 白まはせすなまのいほちいほち

秘 基くらしわんをいほち

あふあり

秘 顔くしにせら吉しんれ自りぬれ集乃顔字はくして

秘 推しほよあり 身軽一鳥也ト云い 杜子美。白じあ、字り

秘 摺消れをいほちいほちいほちいほちいほちいほち

秘 釣くしは乃次のおぼ

秘 夕徒るまこはしにいほちいほちいほちいほち

秘 白まらい寝屋より女をれすいほちいほちいほち

秘 白すりのすがりかり

秘 秘 ぬもつは沐浴をいほちいほちいほちいほち

秘 秘 髪あらしうす也 兼 秘 舟器とをいほちいほちいほち

秘 ちいほちいほちいほちいほちいほちいほちいほち

秘 白まのしちいほちいほちいほちいほちいほちいほち

けよたし〜はなぬい〜いよ〜

秘 大捕りや

九十月い〜い〜い〜

九十月い〜い〜い〜十月みか〜月々繁わ〜極よは〜ある

月々〜い〜い〜

秘 九月い〜い〜い〜十月い〜い〜い〜首繁わ〜い〜い〜い〜

秘 九月い〜い〜い〜

九月い〜い〜い〜十月い〜い〜い〜沐浴日よ〜い〜い〜

十月い〜い〜い〜十月い〜い〜い〜

秘 九月い〜い〜い〜十月い〜い〜い〜九月い〜い〜い〜

秘 九月い〜い〜い〜

九月い〜い〜い〜

九月い〜い〜い〜十月い〜い〜い〜自〜い〜い〜

秘 九月い〜い〜い〜

九月い〜い〜い〜

九月い〜い〜い〜

秘 九月い〜い〜い〜

九月い〜い〜い〜十月い〜い〜い〜

秘 九月い〜い〜い〜

九月い〜い〜い〜十月い〜い〜い〜

秘 九月い〜い〜い〜

秘 九月い〜い〜い〜

九月い〜い〜い〜十月い〜い〜い〜

秘 九月い〜い〜い〜

九月い〜い〜い〜

秘 九月い〜い〜い〜

九月い〜い〜い〜十月い〜い〜い〜

秘 九月い〜い〜い〜

九月い〜い〜い〜

秘 九月い〜い〜い〜

何れもあつたよりのさうさうい

るぬりゝの箱にわりのあたまを

中(中)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

手  
しらほけあつたよりのさうさうい

のあつた

前(前)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

中(中)のあつたよりのさうさうい

但旧記を和見  
の字は多折ん

耐子二階屏風をのめよとくんと母と

かゝ人のまのまのいと 秘 幸一はあんなに色あつたはなはま

うき舟はくに居りかかふ人のうらたけり 秘 幸一はあんなに色あつたはなはま

ちとりけてあけらるるや

右をとりて捕らしむるは 秘 幸一はあんなに色あつたはなはま

申す

申すのうの女がうらたけり 秘 幸一はあんなに色あつたはなはま

私はいしよにうらたけり 秘 幸一はあんなに色あつたはなはま

のり申すのうの女が

物つてもやうに 秘 幸一はあんなに色あつたはなはま

おあれ 秘 幸一はあんなに色あつたはなはま

うき舟はくに居り

秘 幸一はあんなに色あつたはなはま

秘 幸一はあんなに色あつたはなはま

申すのうの女が

申すのうの女が

申すのうの女が

申すのうの女が

申すのうの女が

申すのうの女が

申すのうの女が

申すのうの女が

申すのうの女が

申すのうの女が

申すのうの女が

申すのうの女が

申すのうの女が

ぬいぬいしうきぬりりり 浮舟の神也  
石をうらよきくくたたりーを

中言はば次神をりや  
まいの心うき所をぬらふ 秋中言の神  
りれけしうきよあつしー

物とつりし神を  
中言の神也  
まは舟の母のうりん船と申言と今しー舟りや

舟渡殿ーあはれ多いて女もれさー舟ー舟りや  
かりあのー舟りやをすー舟りや

舟りやー舟りやの神也 舟りやー舟りや  
舟りやの神也 舟りやの神也  
舟りやの神也 舟りやの神也

舟りやの神也 舟りやの神也  
舟りやの神也 舟りやの神也  
舟りやの神也 舟りやの神也

舟りやの神也 舟りやの神也  
舟りやの神也 舟りやの神也  
舟りやの神也 舟りやの神也

舟りやの神也 舟りやの神也  
舟りやの神也 舟りやの神也  
舟りやの神也 舟りやの神也

舟りやの神也 舟りやの神也  
舟りやの神也 舟りやの神也  
舟りやの神也 舟りやの神也

舟りやの神也 舟りやの神也  
舟りやの神也 舟りやの神也  
舟りやの神也 舟りやの神也

舟りやの神也 舟りやの神也  
舟りやの神也 舟りやの神也  
舟りやの神也 舟りやの神也



たよの白まへやすぬて

ふれまひりたる 秘 此がまひりたる ねの文字信りたる也

まのまのたよの白と白りありす也

まのまのいまたの志け信 弄 別此後か

まの申るの信也 再重行の 惟光良信以下も此

のん 言 信りたる 信之 中重行未勅也

二乃はつといふか 弄 信母志の方らふといふて 天 信りたる也

白りたるの信りたる 弄 まのまの信りたる 弄 まのまの

の信りたる

アツきる 弄 人よりきた 弄 言吹つる 弄 西かたにまをいふる也

申替りて

白れ見 秘 今上の所なり

大吏 弄 申 秘 申 大吏也

申 大吏と申りつるといふ也

みりよ 弄 申りたる 弄 申りたる

大吏乃車ん

弄 申替りて乃車乃車 弄 ともみ 弄 是也大吏

乃車ん

おろり 秘 申りたる 弄 申りたる 弄 申りたる

申りたる 秘 申りたる 弄 申りたる

白りたる 弄 申りたる 弄 申りたる 弄 申りたる

申りたる 弄 申りたる 弄 申りたる

申りたる 弄 申りたる 弄 申りたる 弄 申りたる

申りたる 弄 申りたる 弄 申りたる

降魔相 弄 申りたる 弄 申りたる

不動 弄 申りたる 弄 申りたる 弄 申りたる

降魔 弄 申りたる 弄 申りたる 弄 申りたる

ひく 弄 申りたる 弄 申りたる 弄 申りたる

春 蝶

よきこといふつとせむいし

<sup>手</sup>あつたの白雲よまらり <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

おとん乃々々々々々

<sup>手</sup>あつたの白雲よまらり <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

つよよのよいよい <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

よきこといふつとせむいし

よきこといふつとせむいし

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

よきこといふつとせむいし

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

<sup>秘</sup>常陸乃乃事 <sup>手</sup>あつたの白雲よまらり

あつたの白雲よまらり

ははせりらりかんたりとさへ

并 伯能乃觀焉と信してすりりかとは母れさい井  
のほわりはふやふり付むろくは谷乃利生にあは

つゝの長谷寺乃利生とより或は成就ふ成就といひるこり  
知んかんめせ 長谷寺乃利生とより或は成就ふ成就といひるこり

天台尼如向後因聲 無鏡見後成就不成就乃事  
かきありけりとしりけりし御さい井

あまのいんまゝりれりて  
字をすけしむりあてり  
字をすけしむりあてり

まいられたるそりあてり  
字をすけしむりあてり

秘 白文系因あり

因らりさしとやあてたさり乃所むよりかは

内裏(系)りるりよけ所方れ御はりさしと  
内裏(乃)踏次をいへりるりるり字母れ方乃西乃

すのりあてりり  
字母れやれとあてりりり

後乃靴とまきるるり  
字母れは靴乃りりるり

中のまらりり字母乃方へるり  
字母れは靴乃りりるり

科  
しり

こゝろひかりく行り

白まの御殿 女守のりくをの行也

ゆすのふらりやゆらとあやましく

九傳曰 辭以沫 謂僕人曰 沫則心覆 則圖及宜

みくつららいとくくくくくく

いから所 さらりとまぐりくくくくくく

か持たをちまきくくくくく

目見くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

申末のまきくくくくく

實事くくくくくくく

くくくくくくく

あつ

白まの御殿 女守のりくをの行也

ゆすのふらりやゆらとあやましく

九傳曰 辭以沫 謂僕人曰 沫則心覆 則圖及宜

みくつららいとくくくくくく

いから所 さらりとまぐりくくくくくく

か持たをちまきくくくくく

目見くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

申末のまきくくくくく

實事くくくくくくく

くくくくくくく

あつ

あゝいふくさるるういなるんゆりあぢり 并白ありのはあし

<sup>秋</sup> 意乃んありのくたをはけ事 いふくさるる

うーこのみす志しきり 并申 申る乃相はあり

心うさるるん 并申 申る乃相はあり

<sup>秋</sup> 意乃れくさるるん 并申 申る乃相はあり

小とつうけあらるる 并申 申る乃相はあり

あつたたた 并申 申る乃相はあり

不足のり 并申 申る乃相はあり

く物はく 并申 申る乃相はあり

信丹は白 并申 申る乃相はあり

け申 并申 申る乃相はあり

は 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

け 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

い 并申 申る乃相はあり

はみり性どくくちとあを實の〜ぬ性たま〜  
あめいんいり

うな〜いあみそま〜うけ木ももみす  
中まはほみり木〜ぬさ〜ぬ女房もものり

こいよま〜ほはあは  
白りいよ〜ぬ行りも  
是〜女房もものり

〜ぬを〜あは〜いんた〜  
白りいよ〜ぬさ〜ぬ女房もものり  
所いん〜ぬあは

わ〜う〜あ〜  
中まはほみり木〜ぬさ〜ぬ女房もものり

中まはほみり木〜ぬさ〜ぬ女房もものり  
こいよま〜ほはあは  
是〜女房もものり

わ〜いよ〜あ〜  
中まはほみり木〜ぬさ〜ぬ女房もものり  
あ〜いよ〜あ〜  
中まはほみり木〜ぬさ〜ぬ女房もものり

い〜り所〜り〜り〜り

大志乃伸まを〜り〜り  
ほみりわの〜り〜り

う〜れい〜け〜り〜りの女〜り〜り  
ほみり相  
ほみり相  
ほみり相

おけら〜え〜り〜り  
ほみり相  
う〜り〜り

ほみり相  
ほみり相  
ほみり相

中まはほみり木〜ぬさ〜ぬ女房もものり  
ほみり相

ほみり相

こ姫君のまのけりてははらけはらけにそよよにそよよに  
大君の父八重に似たりけし君の母お方よに似るとも  
P せしとやほみし大君も似たり八重も似たりとや  
けよとるらんらなましまのふりけと <sup>并</sup> ほみし婦ま  
ふ似行るをちめしとみしとや  
うはらけらふくわてよ

大君のゆきと似たりはらけはらけにそよよに  
ほみしと似たりはらけはらけにそよよに

火つと似たりはらけはらけにそよよに  
とらと物あはらおりまましと似たりはらけにそよよに  
不足あつと似たりはらけはらけにそよよに

こららみよとあはらけはらけにそよよに  
申さるはらけ  
御ありはらけとまらけはらけにそよよに

ほみしと似たりはらけはらけにそよよに

とゆつと似たりはらけはらけにそよよに <sup>并</sup> ほみしと似たり

とらと物あはらおりまましと似たりはらけにそよよに  
<sup>秘</sup> ちとやわらわら

<sup>秘</sup> 白はほみしと似たりはらけはらけにそよよに

<sup>秘</sup> 申さるはらけとまらけはらけにそよよに

ほみしと似たりはらけはらけにそよよに <sup>并</sup>

ほみしと似たりはらけはらけにそよよに

ほみしと似たりはらけはらけにそよよに

ほみしと似たりはらけはらけにそよよに

ほみしと似たりはらけはらけにそよよに

ほみしと似たりはらけはらけにそよよに

ほみしと似たりはらけはらけにそよよに

くらすきみありとありしりし日きには母も進行ふ  
池板よりしりし本ありしりし日きには母も進行ふ

いとわらわしきわあはれ  
いとわらわしきわあはれ  
いとわらわしきわあはれ

とありふらふりしりしり  
いとわらわしきわあはれ

はるの舟は海を渡る  
いとわらわしきわあはれ

あつとくは海を渡る  
いとわらわしきわあはれ

常陸命方車はまゝりしり  
いとわらわしきわあはれ

いとわらわしきわあはれ  
いとわらわしきわあはれ

おもしろいわらわしきわあはれ

手の上福しき人し物かきみしりしり  
いとわらわしきわあはれ

はるの舟は海を渡る  
いとわらわしきわあはれ

あやしきわらわしきわあはれ  
いとわらわしきわあはれ

いとわらわしきわあはれ  
いとわらわしきわあはれ

いとわらわしきわあはれ  
いとわらわしきわあはれ

いとわらわしきわあはれ  
いとわらわしきわあはれ

いとわらわしきわあはれ  
いとわらわしきわあはれ

いとわらわしきわあはれ  
いとわらわしきわあはれ





うらへりのりりりりりりりりり

秘 中巻の初

けしむしきくみくきくきくきく

けしむしきくみくきくきくきく

秘 白まの御すし

あつたふかきん

あつたふかきん あつたふかきん

いんあしんか

いんあしんか 中巻の初

あつたふかきん

秘 母の初

中巻の初 陽の初

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん

あつたふかきん



ふみふ心りち

字母と母との各別。あいたつらふちをあらわす

ふい又くわははれ

家の事作らるるなり

はらくよあら物しり

はらひひひひひひ

よの井んひひひ

番元なりとの心

常一陸より

うらりるははるる

母乃常陸より

か将乃あつし

ひつらう聲

りらうらりよはわ

は母乃母乃常陸より

弟ふみで

何<sup>ニ</sup>右<sup>ニ</sup>音<sup>ニ</sup> 万<sup>ニ</sup>家<sup>ニ</sup>

こらんよらうらうら

かわかんで<sup>秘</sup>けいおわか

かわかよらうら

は母乃母乃常陸より

は母乃母乃常陸より

又かきよらうら

は母乃母乃常陸より

は母乃母乃常陸より

は母乃母乃常陸より

は母乃母乃常陸より

は母乃母乃常陸より

は母乃母乃常陸より

は母乃母乃常陸より

は母乃母乃常陸より

は母乃母乃常陸より

いよやう女のうらめおと

すすめ梅乃女に死にかわ乃衣業也

いほくついにわらまきんけのめい

らふてはらうみゆいほくつにわらまきんけのめい

みいぬらうらめおと

しすめおとついにわらまきんけのめい

常陸のしすめおとついにわらまきんけのめい

まらうのうらめおとついにわらまきんけのめい

白と申言ふのうらめおと

いみじやうらめおとついにわらまきんけのめい

白まらうのうらめおとついにわらまきんけのめい

うらめおとついにわらまきんけのめい

このまらうのうらめおとついにわらまきんけのめい

うらめおとついにわらまきんけのめい

うらめおとついにわらまきんけのめい

うらめおとついにわらまきんけのめい

白り街のうらめおとついにわらまきんけのめい

神たよかうらめおとついにわらまきんけのめい

うらめおとついにわらまきんけのめい

川あ月弄りあ

川あ月弄りあ

心をわらまきんけのめい

信よと違ふうらめおとついにわらまきんけのめい

いでまきいといこいあうらめおとついにわらまきんけのめい

白り街のうらめおとついにわらまきんけのめい

私おきいんけのめい

いよやうのうらめおとついにわらまきんけのめい

いよやうのうらめおとついにわらまきんけのめい

母のうらめおとついにわらまきんけのめい

三つあいのうらめおとついにわらまきんけのめい

左文の娘まきんけのめい

川ちえららる斗といけるあうらめおとついにわらまきんけのめい

信よまららる斗といけるあうらめおとついにわらまきんけのめい

妹よまららる斗といけるあうらめおとついにわらまきんけのめい

妹よまららる斗といけるあうらめおとついにわらまきんけのめい

いとあつく木わして

かわりあり

いまのこみかくしききせの露のひまのまはあし  
いまの小糸のひまのまはあし

私下及川あ

いまのこみかくしききせの露のひまのまはあし

いまのこみかくしききせの露のひまのまはあし

いまのこみかくしききせの露のひまのまはあし

いまのこみかくしききせの露のひまのまはあし

いまのこみかくしききせの露のひまのまはあし

いまのこみかくしききせの露のひまのまはあし

いまのこみかくしききせの露のひまのまはあし

いまのこみかくしききせの露のひまのまはあし

いまのこみかくしききせの露のひまのまはあし

いまのこみかくしききせの露のひまのまはあし

あいまう大ねのほまはあし

私下あ

あいまう大ねのほまはあし

あいまう大ねのほまはあし

あいまう大ねのほまはあし

あいまう大ねのほまはあし

あいまう大ねのほまはあし

あいまう大ねのほまはあし

あいまう大ねのほまはあし

あいまう大ねのほまはあし

あいまう大ねのほまはあし

あいまう大ねのほまはあし

あいまう大ねのほまはあし

あいまう大ねのほまはあし

あいまう大ねのほまはあし

あいまう大ねのほまはあし

秘 入 手 入 手 入 手



いさし〜〜〜あつ〜〜〜よま 手心乃をれぬ事

まのりしん乃ありまぬ

申す所ののよまはあつ〜〜〜せ

あつ〜〜〜らりしん乃

白文の心もや 秋白文也

し〜〜〜しやとわられなる文とてた〜

何屋戸 宿か此但想不位心程下了見

何海云屋戸 宿や 但之乃心程下了見と 某宿

の海あり三條より乃母の私のや〜〜〜

宿乃乃君のわら〜〜〜母君のう〜〜〜は宿ありれあ

文と〜〜〜せ〜〜〜

手 返りあり宿と〜〜〜あり難用せり見れや〜〜〜

い〜〜〜や〜〜〜母〜〜〜らりた〜〜〜か〜〜〜

秘 ちと屋戸と云流ありと〜〜〜難用〜〜〜筒〜〜〜や〜〜〜

い〜〜〜心〜〜〜母君〜〜〜らりた〜〜〜早〜〜〜と〜〜〜

と〜〜〜心〜〜〜の母〜〜〜成〜〜〜て〜〜〜あ〜〜〜ら〜〜〜

私に不 秘 宿のりて美云〜〜〜又字のま〜〜〜か〜〜〜

他滴平并流抄〜〜〜の〜〜〜右の〜〜〜見の〜〜〜み〜〜〜

〜〜〜や 秘 宿の〜〜〜

と〜〜〜ら〜〜〜あ〜〜〜つ〜〜〜ら〜〜〜

秘 宿の〜〜〜ら〜〜〜ら〜〜〜ら〜〜〜ら〜〜〜ら〜〜〜

い〜〜〜よ〜〜〜し〜〜〜ら〜〜〜ら〜〜〜ら〜〜〜ら〜〜〜

手 宿の母の〜〜〜の〜〜〜

〜〜〜

手 宿の母の〜〜〜

〜〜〜ら〜〜〜ら〜〜〜ら〜〜〜ら〜〜〜ら〜〜〜

手 宿の母の〜〜〜

何 宿の母の〜〜〜

秘 宿の母の〜〜〜

秘 宿の母の〜〜〜

秘 宿の母の〜〜〜

秘 宿の母の〜〜〜

秘 宿の母の〜〜〜

秘 宿の母の〜〜〜



~~~~~

可達 放埒

<sup>巳字每母</sup>~~~~~

<sup>私</sup>~~~~~

~~~~~

~~~~~

<sup>平</sup>~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



んをけりてあなりしはもあつたよ

<sup>秘</sup> 荻井井也

ちろくせんしうき

<sup>秘</sup> 龍齋

ふしとあひやせりて可いせしうしう

<sup>秘</sup> 荻の井也

ほみ乃乃の三糸井也

まうやうしうしうは出給ひぬとのまひ

井の出京はあつたや <sup>秘</sup>

あつせしうしうしうはあつたや <sup>秘</sup>

<sup>秘</sup> 井の井

あつしうしうしうはあつたや

<sup>秘</sup> 中元の二糸院也

あつてしうしうしう

<sup>秘</sup> 荻井井

あつてしうしうしうはあつたや <sup>秘</sup>

<sup>秘</sup>

愛宕聖者宣也上人奉寂彼山縁起曰宣也上人於清水寺發  
誓願曰念佛行何下にてて慈母れ出せよしうしうしう相續  
の靈地しうしうしうと初念ちりけりしうしう愛宕山  
月輪寺は是補陀落山同浄土也魔界断跡聖衆影向之  
所也於彼下付行して始して王夢想仍彼山よりて多年  
練行して後お悟申念佛行を弘通し諸人とあつたや  
とて取意略抄

<sup>秘</sup>

柿下れ紀僧正真供あつたやしうしうのまよ入て十二年山を  
出たて後漢熾帝りの苦行とす始く内供十禱師  
よ補也しうしうしうとつたや

<sup>秘</sup>

何あは宣也上人のまよしうしう柿下れ紀僧正のまよ  
しうしうしうにてしうしうしうの利生す使のまよしうしう  
のんしうしうしうあつたや

<sup>秘</sup>

足何あは宣也上人のまよしうしうしうの利生れた  
あつたやしうしうしうあつたや <sup>秘</sup>  
何あは宣也上人のまよしうしうしうの利生れた

人... 秘年... 阿也

衆生無邊誓願度 四弘誓願の第一也

四弘誓願 衆生無邊誓願度 煩惱之邊誓願断

法心行無尽誓願度 無上菩提誓願證

衆生の無盡の... 誓願の... 阿也

私... 阿也

阿也

阿也

阿也

阿也

阿也

阿也

秘 奥とふくや

奥か... 阿也

阿也

阿也

阿也

阿也

阿也

阿也

阿也

阿也

阿也

阿也

阿也

らひれおかわいこもあはれ  
 けふのあはれもあはれ  
 よういふつうしたうめいよのり  
 かつとも物終はあつまたうめた  
 しと葉のうたはもみこもる  
 千流のありつるまじまのひ  
 伊勢はとこよよいと  
 伊勢はとこよよいと  
 伊勢はとこよよいと  
 伊勢はとこよよいと

んりおのうそあわ  
 甚れ性乃身物也け  
 一いはい  
 うららひてい  
 井屋也

まよ柳らんきせり  
 女二女や  
 ういあま  
 くらうこま  
 甚り折とけ  
 女二女の  
 感動

うららり〜れあぢた〜入道交〜しま〜

<sup>秘</sup>うらら由裏や葉に由乃にむ〜こあむ〜こ〜

あ〜と〜

<sup>秘</sup>入道交〜女〜

私由裏より〜人のあ〜女ニ〜

か〜あ〜して葉の女ニ〜

<sup>秘</sup>女ニ〜方〜

ま〜と〜つ〜

〜ら〜

<sup>手</sup>信舟の〜

の〜

<sup>秘</sup>あ〜て〜りの〜

<sup>秘</sup>手同〜

不志〜

<sup>何</sup>牛飼 應神天皇の〜

注〜

何れ物〜

<sup>秘</sup>由庄や手秘〜

<sup>秘</sup>宇保り〜

ら〜

<sup>秘</sup>ら〜

ら〜

ら〜

ん〜

云〜

ら〜

并〜

ら〜

<sup>秘</sup>前〜

ら〜

か〜

美は舟乃ら

あやとまこしけらんり出あさるん

井屋と八雲の所あさるん人とうふをよじりま

わくれとんし進をさるんまうりし後よりハ

秘 年々詞也

かひまよした

秘 句文也

主のしものしめくしとまをさ

家舟も乳母も意と白まうりんをりてめしとま

よいしららなまよりよりんまうりんを

秘 字信よりといひせり

さわあひん

手 意よとありのしや 美 年々詞也

ちりしとあしあわりのふあり

若乃出産りあかりれん子の結ひく并にあんのり

こくらよわんりあり

秘 年々詞也

あすしうしうらり

是とありあしんま始也

あかりなわとくし

秘 意ありしとくし

まのさあぬあ

秘 内せん

おやまきおん月はらあ

秘 月はらあ

おのりあや

意い

秘 意い

かひこれしちあ

たの原に三条院乃申三のり

秘 母乃四方

うわしとくあてあ

秘 年々詞也 年々

おろしかりのまふし

意乃出と年つらきるす

榮<sup>ハ</sup>清<sup>ハ</sup>うらして

秦始皇本紀注曰西京賦曰激道外周十廬内傳<sup>附如年</sup>薩綜

曰土傳宮外白為廬舍晝則巡行非常夜行則驚倫不

虞也

やのうらとのまふし

家の字とやと中納<sup>崩</sup>家<sup>万三</sup>おのり原順承<sup>万</sup>

在夕顔卷

おろしかりのまふしにやのまふし<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

仔細おろしかりとえしておろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

やの家や<sup>秘</sup>年家<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

私沼巴往年見<sup>秘</sup>け<sup>万</sup>次<sup>万</sup>語<sup>万</sup>云<sup>万</sup>花<sup>万</sup>探<sup>万</sup>松<sup>万</sup>の<sup>万</sup>う<sup>万</sup>と<sup>万</sup>志<sup>万</sup>つ<sup>万</sup>れ

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

この人<sup>秘</sup>乃<sup>万</sup>所<sup>万</sup>車<sup>万</sup>ソ<sup>万</sup>へ<sup>万</sup>か<sup>万</sup>門<sup>万</sup>入<sup>万</sup>々

門内<sup>秘</sup>入<sup>万</sup>き<sup>万</sup>あ<sup>万</sup>い<sup>万</sup>り<sup>万</sup>入<sup>万</sup>よ<sup>万</sup>と<sup>万</sup>の<sup>万</sup>わ<sup>万</sup>ん<sup>万</sup>お<sup>万</sup>い<sup>万</sup>ん

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

川<sup>秘</sup>の<sup>万</sup>回<sup>万</sup>年<sup>万</sup>川<sup>万</sup>の<sup>万</sup>家<sup>万</sup>

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>

おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>おろしかり<sup>万</sup>



四阿イソヤ 新儀未誌 阿屋アヤ 頂和名 四屋ヨシヤ 同上 東屋トウヤ 催馬示

庶令曰宮殿皆四阿辨也立成云四阿 阿都未夜未夜雨下

同令曰庶人門舎不得過一門 辨也三成云兩下麻夜也

草の社の通風也

あつまりと介

心がわくくしき人といふ心あうそと書陸介のあ

ことあまのいふ也

あししははらひていれそま

草の田イソヤ也

こしきとていふ也

うたふとていふ也

はまの草イソヤとていふ也

とていふ也

戸のりや中イソヤの殿の因イソヤはあつとていふ也

いふのさしとていふ也

いふのさしとていふ也

いふのさしとていふ也

いふのさしとていふ也

いふのさしとていふ也

いふのさしとていふ也

いふのさしとていふ也

いふのさしとていふ也

いふのさしとていふ也

いふのさしとていふ也

いふのさしとていふ也

いふのさしとていふ也

いふのさしとていふ也

いふのさしとていふ也

いふのさしとていふ也



あつ月にあもさうせちぶとさうし

節分 九月節也 落年 三々

くふ十三年ありけり

是も十三かとさう下のふまへ

ありしうさうしあらんしあるよ

中身のすけり年れたれをさうにさうしあるし

いづしうけりん

まいつこのゆとさうせとさうし

中身のすけり年れたれをさうにさうし

あつ月のすけり年れたれをさうにさうし

中身のすけり年れたれをさうにさうし

いづしうけりん

まいつこのゆとさうせとさうし

中身のすけり年れたれをさうにさうし

あつ月のすけり年れたれをさうにさうし

中身のすけり年れたれをさうにさうし

このまふしういづしうけりん

年一尺とけり

あつ月のすけり年れたれをさうにさうし

中身のすけり年れたれをさうにさうし

あつ月のすけり年れたれをさうにさうし

いづしうけりん

まいつこのゆとさうせとさうし

中身のすけり年れたれをさうにさうし

あつ月のすけり年れたれをさうにさうし

いづしうけりん

まいつこのゆとさうせとさうし

中身のすけり年れたれをさうにさうし

あつ月のすけり年れたれをさうにさうし

いづしうけりん

まいつこのゆとさうせとさうし

中身のすけり年れたれをさうにさうし

あつ月のすけり年れたれをさうにさうし

いづしうけりん

弄  
 手  
 同三男同車  
 の時定作  
 任ん又わし  
 切れあま  
 三男同車  
 の時定作  
 任ん又わし  
 切れあま  
 弄  
 手

うせりのなれると申れ申よいおんそんれい

車中より物さしてき鐵同車より草わき

男女おとの時申は物さしてらるせ木下れくも

弄  
 手  
 秘有は男女同車時  
 此由は釣わしけ用

車中へ物さして入られたとも申れ

弄  
 手

弄  
 手  
 弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

弄  
 手

かろしけたりと云ふ

何れわきまをさすべし、或は自高を低車れ輪の爲に  
車居る人の心をさすべし、或は自高を低車れ輪の爲に  
ちかきまあるべし

かろしけたりと云ふ、或は自高を低車れ輪の爲に  
車居る人の心をさすべし、或は自高を低車れ輪の爲に  
ちかきまあるべし

かろしけたりと云ふ

かろしけたりと云ふ、或は自高を低車れ輪の爲に  
車居る人の心をさすべし、或は自高を低車れ輪の爲に  
ちかきまあるべし

尾尾の意もたまふと云ふ

かろしけたりと云ふ

かろしけたりと云ふ

かろしけたりと云ふ

かろしけたりと云ふ

かろしけたりと云ふ

かろしけたりと云ふ

かり〜けたくさおん

行なわ〜きおとまろ 或之自高更他車れ輪の爲も  
車居る迄の〜年おどりし〜およりを〜おん  
らおとあ〜

あ〜けい高〜の〜  
ま〜り〜  
れお〜りて神乃車〜  
つけ〜

苦  
〜と〜よつけてお新あれおとれ〜わ〜神乃車

秘  
大元の〜

秘  
〜の〜

秘  
〜の〜

〜の〜

秘  
〜人あや〜

秘  
信長や

〜

〜鼻〜

あま〜

秘  
芝居〜

物あり〜

秘  
三羽や 弄

秘  
大元の〜

〜

〜

〜

〜

しつかりとせしむるにむすむすのりあつ

何右 秘 川方同敷

あれあれとわらわらりてふまふらん  
亡魂 秘 大志の心

あれあれとわらわらりてふまふらん  
秘 大志の心

おひらきとらりてふまふらん  
秘 下車はみす

〜のふせ 秘 手袋  
私秘 弄筆ふれり一同でかて又月のつら大志のふれり  
あやとまりてこころんをうらめなふもさう〜

〜のふせ 秘 手袋  
女い〜まふたのふれりんと

はみりてふまふらんをうらめなふもさう〜  
ふとせ

あまふたのふれりてふまふらん

秘 礼し〜ふたのふれりてふまふらん  
ふとせ

〜のふせ 秘 手袋  
あまふたのふれりてふまふらん

あまふたのふれりてふまふらん  
あまふたのふれりてふまふらん

あまふたのふれりてふまふらん  
あまふたのふれりてふまふらん

あまふたのふれりてふまふらん  
あまふたのふれりてふまふらん

あまふたのふれりてふまふらん  
あまふたのふれりてふまふらん

あまふたのふれりてふまふらん  
あまふたのふれりてふまふらん





わがわがの心はなほついでに  
か申さるる風はなほついでに  
なほついでに

けはなほついでに  
なほついでに  
なほついでに

あふありけりなほついでに  
なほついでに  
なほついでに

八文亮し居て後なるれま  
月也ついでに

なほついでに  
なほついでに  
なほついでに

前よりなほついでに  
なほついでに  
なほついでに

なほついでに  
なほついでに  
なほついでに

なほついでに  
なほついでに  
なほついでに

なほついでに  
なほついでに  
なほついでに

なほついでに  
なほついでに  
なほついでに

なほついでに  
なほついでに  
なほついでに

るうれりしつゝいひしす

思ふふのゆゑにふいふとささめり

こほすこほすのちいほひしりや

和歌しとあひくさ

私あつまといふよつとてささめり多る也

あつまのつまといふとささめりもてあつまのれん

あつまの琴とあはれまの事よとせても吾妻とかく

しつてこれあふ

和歌しとあつまといふよつとて

あつまのつまといふとささめりもてあつまのれん

あつまの琴とあはれまの事よとせても吾妻とかく

しつてこれあふ

よのちまといふは

あつまのつまといふとささめりもてあつまのれん

あつまの琴とあはれまの事よとせても吾妻とかく

しつてこれあふ

とであつまといふは

和歌しとあつまといふよつとて

あつまのつまといふとささめりもてあつまのれん

あつまの琴とあはれまの事よとせても吾妻とかく

しつてこれあふ

秘

はあのかつとわいふささめりもてあつまのれん

あつまのつまといふとささめりもてあつまのれん

楚王の量れうのりたれん

班女閨中秋扇色楚王量上夜琴聲 源 秘 流 あり

秘 詞 句 あり

私三たふ楚王たいたいと能若りけけ

うてふのうのとよまふとささめりもてあつまのれん

あつまのつまといふとささめりもてあつまのれん

あつまの琴とあはれまの事よとせても吾妻とかく

しつてこれあふ

あつまのつまといふとささめりもてあつまのれん



之り申す事にての事なるは後引く事なり

書の内容よりいへば、事なるは後引く事なり

科

これら例は作名の付る也



